

区政報告 特集号

発行所：自民党大田区民連合
(政務調査係)
住所：大田区蒲田5-13-14
電話：03-5744-1480



自民党大田区民連合
岸田 てつはる 議員

去る7月7日(木)に地元商店街の協力のもと、大田区の小中学校の児童・生徒の学力向上や区内の産業の発展のために連携している東京工業大学のご好意により、同大学大学院理工学研究科化学工学専攻の鈴木正昭教授を迎えて、清水窪小学校で放射線に関する「正しく怖がる放射線」と題する講習会を約1時間半に及び行っていただきました。そして、大岡山駅周辺も大田区の調査とは別に独自の放射線測定も行っていただく事ができました。

今号の区政報告では、講習会で発表された概要を中心にご報告させていただきます。何かと放射線について漠然とした不安を感じている方も多数おられるかと思いますが、下記の記事を参考にさせていただければと考えています。

東工大・鈴木正昭教授による講習会「正しく怖がる放射線」、概要報告

(1) 放射線の単位

1シーベルト(Sv)=1,000ミリシーベルト(mSv)=1,000,000マイクロシーベルト(μSv)
1時間あたりの線量として1ミリシーベルト毎時や1マイクロシーベルト毎時で表します。放射線の影響は積算値が重要です。マイクロシーベルト毎時の値ではなく、1年間で何マイクロシーベルトあるいは何ミリシーベルト被曝したかが重要です。

ベクレル(Bq):放射線の量を表す単位

例えば500ベクレルとは、毎秒500個の原子核が崩壊して放射線を発していることを意味します。食品の暫定規制値、セシウム500ベクレル/kgとは、1kgの食品に500Bqの放射線を出す量のセシウムが含まれていることを意味します。

含まれる放射線物質がわかれば、ベクレルからシーベルトを換算できます。

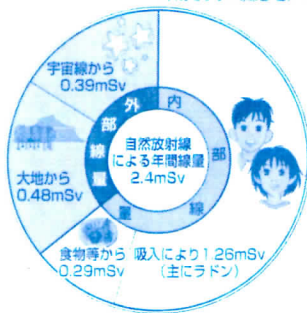
例 セシウム137が500Bq/kg含まれる野菜を、1日100g、365日食べ続けること0.24mSvになります。

1年あたりの自然放射線
...平均2.4mSv (ミリシーベルト)
...人あたりの年間線量(世界平均)

(2) 自然放射線

私たちは、地球上で自然放射線を、1年間に2.4ミリシーベルト浴びています。

(右図参照)



(3) 放射線の人体影響

確率的影響 200ミリシーベルト未満では臨床症状は確認されません。

確率的影響 放射線量に比例してがんや白血病を発症しますが、少ない線量では、他の原因と区別がつかず、比例しているかどうか不明です。

大岡山駅周辺の放射線測定結果

・測定日:平成23年7月1日(金)16:00~17:30
・測定者:鈴木正昭教授、井頭教授、同行者:橋本参事役、大澤さん

測定場所	測定高	測定値 (マイクロシーベルト時)
清水窪小学校	校庭(芝生)	地上1m 0.07
	校庭(芝生)	地面 0.12
	校庭(水飲み場)	排水溝 0.08
北口商店街	マルトブルーノ靴	地上1m 0.08
	事務手前	地面 0.09
北本通り商店街	事務手前	地上1m 0.06
大岡山駅前	東急売場前	地上1m 0.09
南口商店街	土屋寄町前	地上1m 0.07
		地面 0.09
陸会	千束こどもの家前	地上1m 0.08
		地面 0.15
東工大	本館入り口内	地面 0.09
	本館西側1F男子トイレ内	地面以上 0.09
	原子炉研 放射線監視装置前	地上1m 0.09
	原子炉研 放射線監視装置の値	— 0.06

調査台「正しく怖がる放射線」配布資料より

区立小中学校の給食での安全性確保への取り組みの現状について

福島県などで放射性セシウムに汚染された稲わらを手入れして飼育された牛の肉から国の暫定規制値(1kgあたり500ベクレル)を超える放射性セシウムが検出された問題により、発育過程にある子供たちへの影響が心配されています。そこで大田区立の小中学校の給食では、どのような方針に基づいて提供されているのか問い合わせしてみました。

まず、区立の小中学校の給食では、食材の調達も区による一括方式ではなく各学校ごとに購入しています。購入先も(財)東京都学校給食会、地元業者、近隣の八百屋・百貨店などがあり生産地も様々です。これらの食材は国の検査対象となる販売経路内で流通している食品であり、各都道府県で実施している「食品の放射性物質検査」で不検出もしくは基準値内という結果が出たものです。

牛乳については、雪印メグミルク(株)海老名工場(神奈川県海老名市)より調達しています。工場では、産地で行われる検査とは別に週1回牛乳の抜き取り検査を実施し生産されています。

また、懸念されている牛肉については、区教育委員会で作成した標準献立(各学校が使用する献立のモデル)において、小学校では2学期中、中学校では11月まで牛肉を使用したメニューの採用はありません。

大田区では、今後とも子供たちの身体へ悪影響が出ないように国・都が公表する数値などを監視し、児童・生徒の成長に必要な栄養素をバランス良く摂取できる日々の献立を計画的に作成し給食を提供していく方針であり、更に保育園の給食についても同様の措置を取り、安全な美味しい給食が食べられるよう万全を期して行くとのことです。

尚、食材の生産地についての詳細は各学校で公表していますので、ご不明な点は各学校へお問合せください。

屋外活動制限の福島県伊達市の小学生、夏休みに大田区の保養施設でリフレッシュ

福島県産の牛肉から放射性セシウムが検出され大きな問題となっています。東日本大震災による重大事故が発生した福島原発から北西に約60km離れた福島県伊達市においても3月18日金曜日の16時10分に7.89μSv/hの値が測定されました。

そこで伊達市の児童・生徒の被曝量を可能な限り抑えると共に、屋外活動の制限によるストレスを解消するため、夏休み期間中の一時期、原発事故の影響の少ない地域に児童・生徒を滞在させたいとの希望が伊達市よりありました。

大田区では被災地支援事業のひとつに位置付け、バスを運送を目前に郊外に自然あふれる五大野辺山高原の中にある保養所大田区立の中学1年生が移動教室として使用している長野県南佐久郡の野辺山学園 /

伊達市小学生の受け入れ日程
 §第1回 7月25日(月)~28日(水)
 §第2回 8月2日(火)~5日(金)
 §第3回 8月17日(水)~20日(土)

